

## 地域ニーズ6つの発掘ルート

ニーズ発掘  
のルート

野川セブン

すずの会  
定例会

ダイヤモンドクラブ

「タッチ」

体操

ミニデイ

## これからの課題

- ☆ 一人も見逃さないために  
—— すき間をうめる
- ☆ ニーズ発掘力の強化を
- ☆ 後継者をどう育てる？
- ☆ 関係機関の育成
- ☆ ヒラの住民主体でまちづくり  
のモデルに



平成18年度 すずの会《主な活動の報告》

* 定例会	毎月第2火曜日	1:00~4:00
* 地域ネットワーク会議 (すこやか活動)	毎月第1火曜日	10:00~12:00
* 行事準備委員会	年間	53回
* 学習会(課題検討)	毎月	1回
* 活動メンバー		59名
* ミニデイサービス	毎月2回開催	年間 23回開催
場所	野川老人いこいの家	10:00~15:00
費用	昼食代	500円
参加者	利用者	567名
	ボランティア	897名
	取材・研修生	60名
	総計	1524名

- ・参加者は急増しています。毎回初参加の方が来ています。
- ・いこいの家の管理人さんとの連携が目く行っています。地域の拠点として大変有効に利用しています。
- ・ケアハウス、グループホーム入居者の参加も毎回5~6名受け入れています。
- ・普通の暮らしを生きがいをもって継続させるために、地域との接点が孤立しがちな高齢者の生活に意欲をもたらす効果があります。介護予防効果抜群です

\* ダイヤモンドクラブ

歩いて数分のご近所の集まり。ちょっと気になる人が必ず一人入っていること。開催は自由に、緩やかな関係作りに心がける

開催場所	個人宅	16箇所	507名
	その他の開催場所	8箇所	504名

計 1011名

(主なその他の開催場所)

いこいの家(愛達クラブ)	毎月1回
回地集会所	毎月1回
回地たまり場	毎日
パンやの店先	
要介護者の自宅	

\* 地域調査研究(新規事業)

すずの会の活動を検証	23回	118名
指導	住民福祉研究所	木原孝久

- ・地域の要援護者助合いマップを作成。見守り、ちょっとした手伝い、災害時にも対応できるマップの作成
- ・地域内の施設と地域との関係、入所者と家族の関係もマップで解析できました。近くの施設に入所した場合、家族、近隣住民との関係が継続できることが立証されています
- ・高齢化する回地でのマップ作り
- ・緊急対策の必要性が判明
- ・行政に課題を提出
- ・10月28-29に開催された全国支えあいマップ集事に事例報告、参加者480名からおおきな反響をいただきました。その後、ぜんこくから見学、視察などの依頼が殺到
- ・次年度にむけて マップのノウハウと事例をまとめる
- ・野川台自治会より協力要請があり、災害弱者を中心としたマップ作りを行う

\* バリアフリーの旅

外出が難しくなった人も参加。リフト付バスを利用

- ・5月30日(火) 山中湖  
参加者 76名
- ・10月31日(火) 山梨勝沼  
参加者 88名 近隣住民と交流
- ・4月27日(木) 鴨川シーワールド  
参加 70名 ボランティア協力 18名
- ・10月2日(月) 山中湖  
参加 63名 ボランティア協力 17名
- ・参加者の高齢化・重度化しており、事故なく楽しく一日を過ごすための工夫が必要となっている。
- ・無理のない計画と、行程に配慮する
- ・参加者全員の緊急連絡先、かかりつけ医師、服薬情報、排泄、食事の注意等全員のカンファレンスをおこなってから、実行に移している。ボランティアの研修として、車椅子介助、排泄介助の方法を学習する。参加者に合わせ共通の理解と、介助方法を学ぶ
- ・毎回大好評で、参加者は増加、回数を増やし分散も考える
- ・大学生のボランティアは助かる。ボランティアの高齢化で介助が大変。ボランティアのステップアップも必要

\* 喫茶「マロニエ」 特別養護老人ホーム内で喫茶店。近隣の人、入所者家族のいこいの場  
 ・開催日 毎月第3月曜日 1:30~3:30  
 場所 特別養護老人ホーム「富士見プラザ」  
 10回 461名  
 ・手作りケーキとコーヒーなど 300円  
 ・入所者と近隣住民、家族との交流の場  
 ・障害者作業所「宮前ハンズ」のかたも毎回参加  
 ・入所者の常連だったNさん。1月にお亡くなりになりました。喫茶店でボランティアのTさんの写した写真が遺影に飾られました

\* スポットサービス 858回  
 ・今年度は沢山ありました  
 ・ミニデに來られなくなった方の見守り  
 ・介護保険だけではオーバーしてしまう常時見守りが必要な日中独居のサポート  
 ・老老介護で共倒れのサポート  
 ・急な外出、通院の付き添い  
 ・一人では出来ない家事を手伝う  
 ・趣味と一緒に  
 ・箱根に行く  
 ・音楽会に行く  
 ・など、生きがいと自立に向けたサポート

\* 野川セブン わたしの町のすこやか活動 まとめ役 すずの会  
 ・地域ネットワーク会議 定例会 毎月第1火曜日 10:00~12:00  
 自主活動団体と関係機関が毎月地域の課題を話し合い、解決策を探る。  
 地域に関わる関係者が同じ土俵で考える  
 ・参加団体 (21)  
 ・すずの会・南台そよ風・西国地ひまわり・だるまの会  
 ・どんぐり会・お元気会・こころ・野川ひまわり・末広会・宮前第1地区社協・民生・児童委員・地域包括支援センター・宮前区役所高齢者支援担当・施設関係者(ケアハウス青田風・風地草・特養みかど荘・特養富士見プラザ・グループホームクロスハート宮前)  
 宮前区医師会・薬剤師会・患愛病院  
 ・その他希望があった場合参加

\* 『タッチ』v 発行準備  
 介護予防の関わる地域の活動から、介護保険サービス、施設サービス・医療など高齢者に必要な情報を、見聞きし利用者の視点でまとめた冊子  
 A4版 270ページ平成 19年5月12日発行

研修生受け入れ ・中国中山大学大学院留学生 (日本国際交流基金日本研究フェロー)  
 神奈川大学大学院修士課程後期の研究フィールドとしてすずの会を1年間研修。人類学研究論文で博士号取得  
 日本では『比較民族研究』2007/3に発表  
 「高齢化都市社会のコミュニティづくり」  
 川崎の福祉NPO活動の事例を通して

- ・国際医療福祉大学大学院
- ・法政大学大学院
- ・武蔵工大4年生
- ・田園調布大学地域福祉科
- ・北里大学
- ・野川小学校 ・野川中学校

取材 ・NHKTV 難問解決ご近所の底力  
 「介護の悲劇を救え」平成19年1月22日放映  
 ・FMかわさき 「思いやり介護」毎月第2火曜日20分放送  
 ・朝日新聞アエラ 介護者の孤立を防ぐ  
 ・くらしの窓  
 ・タウンニュース  
 ・福祉ドアリサーチ  
 ・マイタウン21

委員会関連 ・宮前区区民会議高齢者部会会長 ・企画部会  
 ・宮前区福祉のまちづくり委員会  
 ・宮前区社会福祉協議会地域福祉計画策定委員  
 ・宮前区運動普及委員  
 ・宮前区地域包括運営協議会委員  
 ・地域ケア会議委員  
 ・宮前第1地区社協ボランティア部会  
 ・野川台自治会

啓蒙・啓発活動 ・川崎市 ・川崎区・高津区・中原区・麻生区・宮前区などですずの会の介護予防・地域ネットワークの試みを事例発表  
 ・神奈川県・川崎市・横浜市主催地域福祉コーディネーターシンポジウムで発表  
 ・全国支えあいマップ研修にて活動事例  
 ・高知市「全国ユニットケア研究会」施設と地域の関係  
 ・大阪府社協 情報提供の方法  
 ・那覇市「ご近所作りから地域作り」

- ・ 神奈川ネットワーク 3箇所 地域作り
- ・ 健生21 高齢者の住まい

助成金            かわさき市民活動センター  
                     共同募金                    -

19年8月より、神奈川県提案型協働事業「地域福祉コーディネーター育成事業」受託

# つながる

## 第3部 実践法

年間を通じて随時連載している「企画」つながる」では、人間関係の豊かさが社会に価値をもたらすという考え方を紹介しながら、国内や海外の取り組みを追ってきた。第3部では、地域をつなぐを作るための具体的な実践法を考えたい。都市部や新興住宅地での人間関係の構築人をつなぐ場作り、人材の発掘法などを取り上げていく。

# 近所付き合い地図に集約

地域をつなぐの作りかたについて、第1部(自助)では日本各地の、第2部(自助)では、第3部では、アメリカやメキシコの先進事例を紹介した。それぞれの事例に共通するのは、地域の助け合いの形になるキーパーソンの大切さだ。

区は人口約2万8000人の典型的なベッドタウンで、民間一人にならざるを得ない。木原さんがマップ作りを始めたのは、在宅介護支援のボランティアグループ「すずの会」メンバーは約50人。子供が独立した60歳代前後の主婦が中心で、昼間も

区は人口約2万8000人の典型的なベッドタウンで、民間一人にならざるを得ない。木原さんがマップ作りを始めたのは、在宅介護支援のボランティアグループ「すずの会」メンバーは約50人。子供が独立した60歳代前後の主婦が中心で、昼間も

必要なのは、接点を見つけていく作業だ。メンバーの一人、Aさんの活動の事例を説明しよう。Aさんは自宅のサロンを開いている。サロンに来ない近所の若年層の中心に、助けが必要と感ずられる住民が数人いた。地図を改めて眺める、Aさんのサロンの普通で、店

内閣府が6月下旬に公表した今年の国民生活白書は、この連載企画で取り上げてきた人間関係の「つながり」をテーマにした。人間関係の豊かさをどう築いていくかが、国の重要な課題になってきたとも言える。

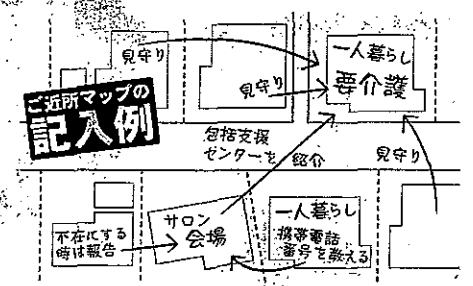
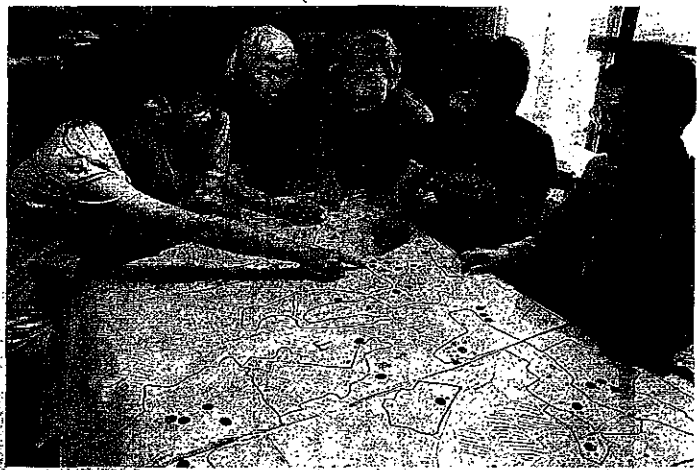
## 地域関係の再構築必要 \* 国民生活白書

白書では経済的社会的格差の拡大、生活の利便性の向上、個人の意識の変化などから家庭や職場、地域でのつながりが弱まっていると指摘。このうち地域でのつながりについて、「生活面で協力し合う近所の人」の人数が「ゼロ」と答えた人が66

多い」と分析した。この連載で紹介してきた「ソージ

「近所付き合いの裏面」の裏面的にわかるように、気が付かながら、空百城の法策を考へるようになり、「と代表の鈴木さん、Aさんも」地図を使っ

を経営するBさんの近所の人たちはほとんど、して来店するのを面識なく、Bさんに持ちかけ、サロンとして開放して



## 緊急時の情報も記入

地元のいろいろな話術を、Aさんの集約だ。代表の鈴木さん(60)は昨年、自分たちが暮らす「近所」で、自分たちが得た情報を住民に伝えた。集約する作業を繰り返して、住居同士がどうかわかると、助けが必要と感ずられる住民の数を減らす。Aさんの活動の事例を説明しよう。Aさんは自宅のサロンを開いている。サロンに来ない近所の若年層の中心に、助けが必要と感ずられる住民が数人いた。地図を改めて眺める、Aさんのサロンの普通で、店

必要なのは、接点を見つけていく作業だ。メンバーの一人、Aさんの活動の事例を説明しよう。Aさんは自宅のサロンを開いている。サロンに来ない近所の若年層の中心に、助けが必要と感ずられる住民が数人いた。地図を改めて眺める、Aさんのサロンの普通で、店

# くらし 家庭

# つながる

第3部 実践法

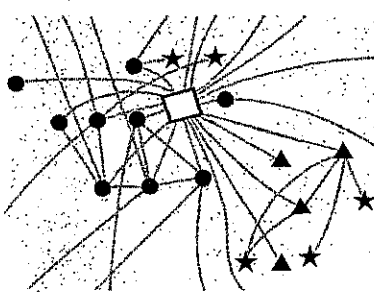
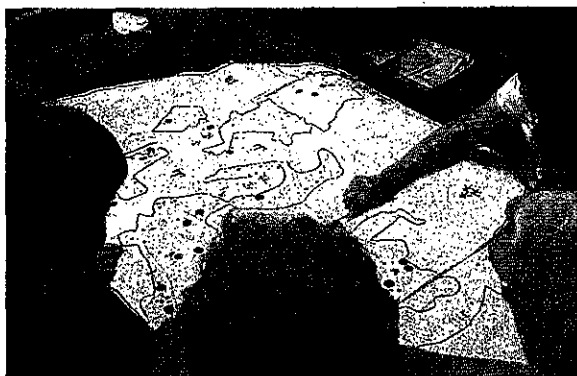
2

前回、川崎市宮前区の野川地区で実践されている住宅地図を活用した「近所マップ」作りを紹介した。地元在住介護支援グループ「すずの会」の鈴木恵子さん(60)を中心に、「住民流福祉総合研究所」(埼玉原毛呂山町)の木原孝久さん(66)の指導で取り組んでいる試みだ。

すずの会のメンバーは、地域の「世話焼きさん」を自任する。住民同士の助け合いに必要な情報を集め、それを地図に書き込んだり、互いのつながりを線で結んだりする。これを基に「気になる」お年寄りらに接触を図るわけだが、「なじみが薄い住民の生活にいきなり介入しても、要らないおせっかいだと思われるだけ。かかわり方には工夫が必要だ」と木原さん。大事なのは、本人が日ごろ悩みを打ち明けたり、頼りにしたりしている相手をまずは特定することだ。通常は近くに2〜3人はいるはずで、地

## 親しい人介して手助け

マップ作りを繰り返せば、意外なつながりもわかってくる。(鈴木恵子さん宅)



世話焼きさんを中心としたネットワークの一部

- サロン開催場所(世話焼きさん宅)
- サロンを通じて交流
- ▲ サロン以外で行き来
- ★ 間接的なつながり

※木原孝久さんの資料を基に作成

### いきなり接触せず意向尊重

図に記入する情報が増えれば、増えるほど、趣味のつながりなど意外な所でその相手が見つかることもある。この人物をキーパーソンと位置づけ、「最近体の具合が悪くなった」「ごみ出しに来ていない」といった情報があれば接触を図ってもらったり、仲介をお願いしたりする。大切なのは、あくまでも助けを必要とする本人の意向を優先すること。会のメンバーはいつも前面に出ていくとは

限らず間接的な接触も含め、最善のかかわり方を探る。例えば、自宅の一室を開放してお年寄りらに集まってもらうミニサロンの活動を、参加者宅に向いた出張方式で行うこともある。すると、ふだんはサロンに来ないのに、その参加者と親しい住民が来てくれる。サロンの主催者を中心に、マップ作りで把握できた「近所つながり」を簡略的に示す図のようになる。個人的

増田さんは、人間同士のネットワークが日常生活や企業の活動にどう役立つのを見据え、研究している。「世話焼きさんを核にネットワークの全体が把握されていけば、個々人に「自分もみんなつながっている」という安堵感や心の支えが生まれてくる」と話す。次回は、住民の助け合いの後方支援となる行政や福祉機関とのかかわり方を考える。

に行き来している住民のほか、交流がある人を介して間接的につながっている住民まで含めると、一人の「世話焼きさん」を核にしたネットワークの広がりがよくわかる。「個人が悩みを打ち明けられる相手は2〜3人でも、間接的なつながりをたどれば広がっていく。地域のネットワークは、案外少ない仲介人数で形成されている場合が多い」と指摘するのは、東京大学講師(情報理工学)で、「私たちはどうつながっているのか」(中公新書)などの著書がある増田直紀さんだ。

くらし 家庭